

ことほぐなら

## 《平成30年度「古都祝奈良2018-2019」事業計画》(案)

奈良市は平成28年度に国家プロジェクト「東アジア文化都市2016奈良市」の開催都市として、年間を通じて様々なアートプログラムを展開し、奈良市の「場の力」を内外に発信した。

平成29年度はその成果を受け継ぐ事業として、奈良市アートプロジェクト実行委員会を立ち上げ、アートの力で地域の社会課題を掘り下げていくために、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良2017-2018」を実施した。

平成30年度は、「古都祝奈良2017-2018」で問題提起された内容を踏まえるとともに、引き続きプロジェクトの質を高め、より多くの市民が参加できる事業として実施する。

### 基本的な考え方

- ・平成30年度の事業タイトルは「古都祝奈良2018-2019」とする。
- ・平成29年度に引き続き、事業構成は「美術部門」と「演劇部門」とし、プログラムディレクターを「美術部門」は西尾美也氏、「演劇部門」は田上豊氏とする。
- ・「東アジア文化都市2016奈良市」を契機に始まった、中韓のパートナー都市との青少年交流事業「東アジア文化創造NARAクラス」(奈良市主催)に協力する。
- ・奈良市教育委員会との調整により小・中学生が事業に参加しやすいスケジュールや学校へのアウトリーチ活動の検討。例えば、11月に市内で開催される中高美術教諭全国大会との協力も含めて教育委員会との連携を強化する。



## 事業の展開方法

### (A) 美術部門

#### (1) チェ・ジョンファ氏とのプロジェクトの継続

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2017-2018」の参加アーティストであったチェ・ジョンファ氏は、昨年度の創作活動を通じて奈良市の文化的なポテンシャルの高さを強く意識された。またアートディスカッションの中でも、チェ氏から奈良での芸術の可能性や奈良市へ愛着を感じていること等、熱い思いも語られた。このように国際的なアーティストであるチェ氏が、奈良市を舞台として創作意欲を持ち続けていることは、本市がアートプロジェクトに取り組んでいく上で得難い要素である。

今年度もチェ氏を招へいし、彼の作品制作に対する考え方をテーマに据えて、彼の奈良での表現をもう一段階深める。

#### (2) 日常生活の場に継続的に“ある”ようなアートプロジェクト

アメリカで実施された「ブラック・マウンテン・カレッジ」という伝説のスクールに着想を得て、寺子屋や市民大学のようなアートスクール「(仮称) グリーン・マウンテン・カレッジ」を実施する。(平成 29 年度実施したアートディスカッション参加者小山田徹氏の発案。ネーミングは若草山の緑をイメージ。)

具体的には「ワークショップ」と「アートディスカッション」の要素を兼ね備えたもので、講師としてのアーティストが出す課題を参加者とともに考える。プロセスを重視した、年間を通じた継続的なプロジェクトであり、その過程を作品として捉えることもできる。

### (B) 演劇部門

#### (1) 青少年と創る演劇「ならのはこぶね」の継続

「東アジア文化都市 2016 奈良市」からの継続事業。次代を担う青少年が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体験し、その成果を発信するとともに、ふるさと・奈良を自分の言葉で語るができる人材育成を目的とする。今年度も演劇部門プログラムディレクターで、劇作家の田上豊氏とともに、中学生・高校生の出演者とともに、新たな「ならのはこぶね」の創作に取り組む。

また、今後この作品をどのように継続させていくのか、これからの展望についても考える。

#### (2) 平田オリザ氏による市民を対象としたワークショップ

劇作家であり、教育者でもある平田氏のワークショップは、幅広い世代の市民が演劇の手法を用いて、新たな自分の発見やコミュニケーション能力の獲得へと巧みに導く内容が大変好評である。今回のワークショップの開催を通じて、奈良市アートプロジェクトの可能性を体験する機会を提供する。